

# 第129期 中間報告書

平成24年1月1日 ▶ 平成24年6月30日

株式会社 **ニチリン**

## 株主の皆様へ

株主の皆様には日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第129期第2四半期累計期間（平成24年1月1日から平成24年6月30日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、1～3月においては概ね堅調に推移しておりましたが、4月以降、欧州においては、財政・金融危機の再燃により景気が低迷し、この影響を受け、中国・アセアン地域・インド等の新興国経済においても景況感が悪化しております。また、米国においては、回復傾向にあった経済も雇用情勢や個人消費の減速等問題を抱え足踏み状態にあります。一方、国内経済は、東日本大震災やタイ洪水の影響からようやく持ち直し、一時期の円高の修正などにより企業の生産活動にも明るさが見え始めておりましたが、欧州危機の再燃による円高の定着、株価低迷等により、企業業績にも影響が出始めており、先行き不透明感が高まっております。

当社グループの主要事業分野である日本自動車業界に関する状況は次のとおりであります。当第2四半期連結累計期間における国内自動車各社は、昨年の東日本大震災やタイ洪水による減産分の挽回生産や、エコカー補助金の復活による販売増の追い風もあり、生産を大幅に拡大しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における国内四輪車販売台数は、前年同四半期比53.6%増の294万台、四輪車輸出台数は、前年同四半期比35.2%増の248万台、国内四輪車生産台数は、前年同四半期比53.0%増の524万台となりました。一方、国内乗用車メーカー8社の海外生産台数は、北米市場の回復や中国・アセアン地域・インド等の新興国市場においても概ね堅調に推移したため、前年同四半期比27.2%増の796万台となりました。なお、国内二輪車メーカーについては、タイ洪水の生産支援により、国内生産台数は前年同四半期比5.1%増の31万台となり、国内販売台数は前年同四半期比1.9%増の20万台となりました。

このような環境下、当第2四半期連結累計期間の売上高は、19,541百万円（前年同四半期15,607百万円）、営業利益は1,015百万円（前年同四半期108百万円）、経常利益は1,024百万円（前年同四半期183百万円）、四半期純利益は631百万円（前年同四半期 四半期純損失119百万円）となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

### ① 日本

東日本大震災やタイ洪水による生産減の挽回のため、国内乗用車メーカーからの受注が大幅に増加したことやエコカー補助金復活の追い風により、売上高は14,478百万円（前年同四半期12,118百万円）となりました。利益面においては、生産の拡大に対し要員管理に努め、固定費の増加を抑えた結果、営業利益は362百万円（前年同四半期 営業損失220百万円）となりました。

### ② 北米

北米市場の回復および東日本大震災やタイ洪水による生産減の挽回等、好調に推移し、売上高は4,272百万円（前年同四半期3,341百万円）、営業利益は83百万円（前年同四半期 営業損失39百万円）となりました。

### ③ 中国

欧州の財政・金融危機等の影響により、自動車生産の伸びの鈍化はありましたが、売上高は3,335百万円（前年同四半期2,909百万円）となり、営業利益は、材料価格の上昇や人件費増加等もあり337百万円（前年同四半期303百万円）となりました。

### ④ アジア

二輪車市場が概ね堅調に推移したことやインドネシア子会社の本格稼働（平成23年10月から）により、売上高は2,128百万円（前年同四半期424百万円）、営業利益は271百万円（前年同四半期5百万円）となりました。

### ⑤ 欧州

経済の冷え込みにより、売上高は529百万円（前年同四半期566百万円）となり、営業損失35百万円（前年同四半期は営業利益19百万円）となりました。

なお、中間配当につきましては1株につき6円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



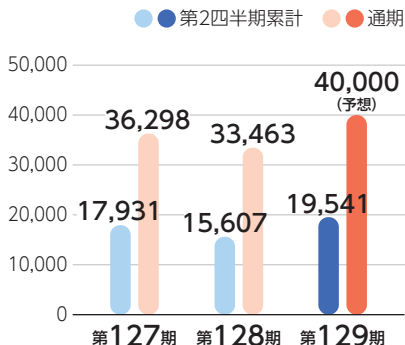
取締役社長

清水 良雄

## 連結業績ハイライト

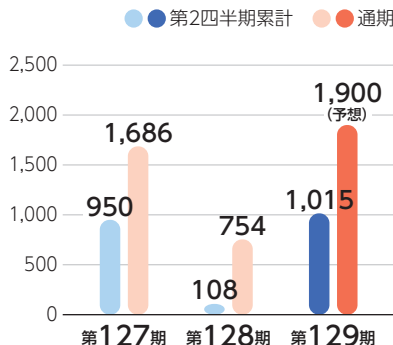
### 売上高

(百万円)



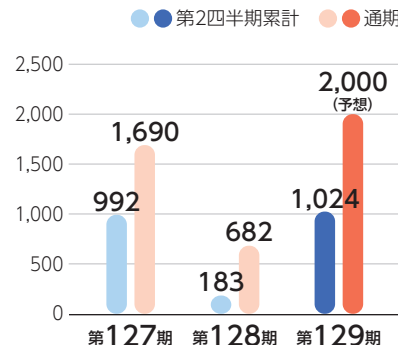
### 営業利益

(百万円)



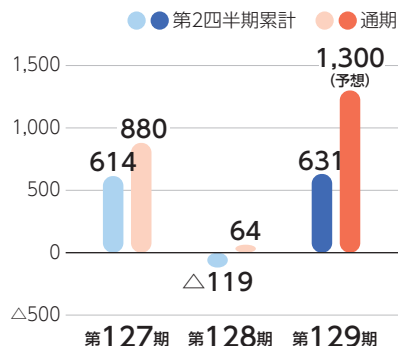
### 経常利益

(百万円)



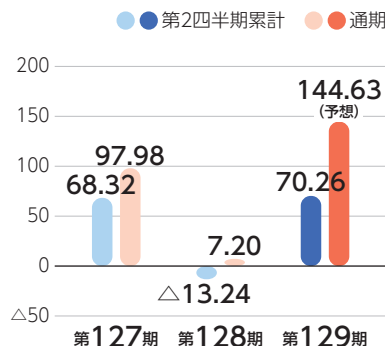
### 四半期(当期)純損益

(百万円)



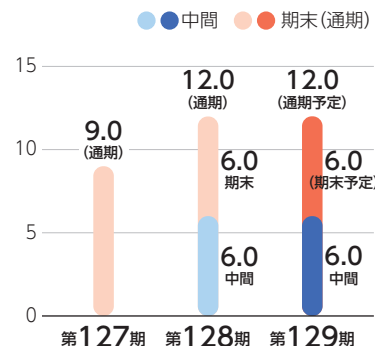
### 1株当たり四半期(当期)純損益

(円)



### 配当金

(円)



## 通期連結業績予想

第1四半期は、東日本大震災やタイ洪水による減産分の挽回生産、更にはエコカー補助金による追い風もあり想定以上に好調に推移しました。4月以降は欧州の財政・金融不安の再燃、更には円高の影響を受けたものの第2四半期累計期間としては、計画に対し、微減にとどまりました。

歴史的な円高の定着により、付加価値の高い四輪車の生産・輸出が減少する傾向が鮮明になり、また、中国市場の停滞感はあるものの、年後半にはアセアン地域を中心とした新興国から徐々に回復基調となるものと予測しております。

現時点では、不確定な要素もあるものの新興国市場の年後半から

の回復を見込み、通期の業績に関しては、平成24年5月9日に公表いたしました連結業績予想を変更しておりません。

このような中、グループを挙げての原価低減、徹底した生産の効率化、グローバルメリットの追求により、一層の利益確保と計画の達成に注力してまいります。

|         |                         |
|---------|-------------------------|
| 連結売上高   | 40,000百万円 (前期33,463百万円) |
| 連結営業利益  | 1,900百万円 (前期 754百万円)    |
| 連結経常利益  | 2,000百万円 (前期 682百万円)    |
| 連結当期純利益 | 1,300百万円 (前期 64百万円)     |

## 株式の状況 (平成24年6月30日現在)

|             |                                |
|-------------|--------------------------------|
| 発行可能株式総数    | 32,000,000株                    |
| 発行済株式の総数    | 9,000,000株<br>(自己株式11,946株を含む) |
| 株主数         | 1,276名                         |
| 大株主 (上位10名) |                                |

| 株主名              | 持株数<br>(千株) | 持株比率<br>(%) |
|------------------|-------------|-------------|
| 太陽鋳工株式会社         | 2,250       | 25.0        |
| 双日株式会社           | 800         | 8.9         |
| 東京センチュリーリース株式会社  | 332         | 3.7         |
| 株式会社みずほ銀行        | 261         | 2.9         |
| ニチリン従業員持株会       | 230         | 2.6         |
| 日本精化株式会社         | 200         | 2.2         |
| 東邦金属株式会社         | 166         | 1.8         |
| みずほインベスターズ証券株式会社 | 136         | 1.5         |
| 株式会社フジコー         | 102         | 1.1         |
| 大谷始子             | 100         | 1.1         |

(注) 持株比率は、発行済株式総数 (自己株式を除く) に対する持株数の割合であります。

## 役員 (平成24年6月30日現在)

|               |      |
|---------------|------|
| 取締役社長 (代表取締役) | 清水良雄 |
| 常務取締役         | 松田眞幸 |
| 常務取締役         | 橋本進  |
| 常務取締役         | 前田龍一 |
| 常務取締役         | 橋本成明 |
| 取締役           | 鈴木一誠 |
| 取締役           | 前田民世 |
| 取締役           | 小幡敏広 |
| 取締役           | 小池聡  |
| 取締役           | 森川良一 |
| 取締役           | 谷口利員 |
| 監査役 (常勤)      | 梶原正  |
| 監査役           | 後藤伸一 |
| 監査役           | 加納隆司 |
| 監査役           | 小野浩昭 |

## TOPICS

### インドネシア新工場建設 & タイ工場復旧完了

昨年設立した海外子会社である「ピーティー・ニチリン インドネシア」は、仮工場で製造を開始していましたが、今年5月に新工場が完成し本格的に生産を開始いたしました。

また、昨年10月に浸水被害を受け操業を停止していたタイの関連会社「ニチリン タイランド」では、今年1月から一部品種の生産を開始していましたが4月に復旧工事が完了し本格的に生産を開始いたしました。なお、工業団地周辺では堤防の洪水対策用かさ上げ工事が進んでおりまもなく完成予定であります。

中国・インド・アセアン地域を中心とする新興市場の拡大する需要に、ニチリングroup全体の相互補完体制を強化し、お客様のニーズにより的確により迅速にお応えしてまいります。



<ピーティー・ニチリンインドネシア 新工場>



<ニチリン タイランド 工場>

## 会社の概況 (平成24年6月30日現在)

|         |  |
|---------|--|
| 創立      | 大正 3年 (1914年) 5月   |
| 設立      | 大正13年 (1924年) 3月   |
| 資本金     | 17億2,900万円   |
| 本社      | 〒650-0033<br>兵庫県神戸市中央区江戸町98番地1<br>東町・江戸町ビル3階   |
| 事業所     | 姫路工場<br>〒671-0224<br>兵庫県姫路市別所町佐土1118番地   |
|         | 東京支社<br>〒105-0023<br>東京都港区芝浦一丁目3番11号<br>ニュー芝浦ビル4階  |
|         | 浜松営業所<br>〒430-0928<br>静岡県浜松市中区板屋町110番地の5<br>浜松第一生命日通ビル11階                                    |
|         | 厚木配送センター<br>〒243-0303<br>神奈川県愛甲郡愛川町中津字桜台4055番地   |
| 主要な事業内容 | 当社はゴム製品製造業として、自動車用ブレーキホース、パワーステアリングホース、カーエアコンホースなど自動車用各種ホースをはじめ、住宅用温冷水混合水栓用ホースなどの製造を行っております。 |
| 従業員     | 388名 (出向者43名を除く)   |

## 株主メモ

|   |  |
|---|--|
| 事業年度  | 毎年1月1日から12月31日まで   |
| 定時株主総会  | 毎年3月に開催  |
| 基準日   | 毎年12月31日<br>その他必要あるときはあらかじめ公告して定めます。   |
| 株主名簿管理人   | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号<br>三井住友信託銀行株式会社  |
| 同事務取扱場所   | 〒541-0041<br>大阪市中央区北浜四丁目5番33号<br>三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  |
| 郵便物送付先  | 〒168-0063<br>東京都杉並区和泉二丁目8番4号<br>三井住友信託銀行株式会社 証券代行部   |
| (電話照会先)   | 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)<br>取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。  |
| 公告方法  | 電子公告 (当社ホームページに掲載します。)<br><a href="http://www.nichirin.co.jp/koukoku.html">http://www.nichirin.co.jp/koukoku.html</a><br>ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 |
| 単元株式数   | 100株   |
| 上場証券取引所   | 株式会社大阪証券取引所 市場第2部  |
| 証券コード   | 5184   |
| 当ホームページ   | <a href="http://www.nichirin.co.jp/">http://www.nichirin.co.jp/</a>  |
| ・住所変更、単元未満株式 (1株から99株まで) の買取等のお申出先について<br>株主様の口座のある証券会社等にお申出ください。<br>なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。 |  |
| ・未払配当金の支払いについて<br>株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。   |  |

